

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of infants' feeding pattern up to 2 years postpartum with mothers' mental and physical health: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

産後2年までの授乳パターンと母親の心身の健康との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2023 DOI: 10.1016/j.jad.2023.01.106

筆頭著者名: 角田 香澄

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

母乳栄養は、母親の精神や身体の健康に有益であることが報告されているが、心身に脆弱性が残る産後2年半の母親を対象とした報告は少ない。本研究では、授乳パターン(6ヶ月までの完全母乳育児の実施、授乳時の子どもとの関わり、2歳までの母乳育児の継続の有無)と産後2年半の母親の心身の健康との関連を検討した。

方法:

エコチル調査に参加している85,735人の母親を対象とした。授乳パターンは、産後1ヶ月、6ヶ月および2年時の質問票から判断した。産後2年半時の母親の心身の健康状態は、MCS(精神的健康度)およびPCS(身体的健康度)を用いて評価した。両者の関連は、6ヶ月までの完全母乳育児の実施なし、子どもとの関わりなし、2歳までの母乳育児継続なし、のそれぞれを基準とする一般化加法混合モデルを用いて解析した。

結果:

6ヶ月までの完全母乳育児の実施および授乳時の子どもとの関わりがあることは、それぞれない場合に比べて、産後2年半時点より高いMCSを示した(完全母乳育児:0.28, 95%CI:0.10-0.47)(子どもとの関わり:0.41, 95%CI:0.29-0.54)。一方、2歳までの母乳育児の継続とMCSには関連が認められなかった(0.10, 95%CI:-0.20-0.40)。PCSにはいずれの授乳パターンも関連しなかった。さらに、授乳パターンを組み合わせるところ、いずれの組み合わせもMCSおよびPCSと関連しなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究結果により、産後2年半の母親の精神的健康には、6ヶ月までの完全母乳育児の実施と授乳中の子どもとの関わりの有無が関連するが、2歳までの母乳育児の継続とは関連しない可能性が示唆された。これらの結果は、長期間継続して母乳育児を実施するより、出産直後に、子どもと充分に関わりながら完全母乳育児を行うことが母親の精神的健康に対して有益である可能性を示している。本研究の主な限界は、授乳パターンおよびMCSとPCSは自己回答に基づいているため、記憶の間違いによる誤差が生じた可能性があるという点や、神経伝達物質として母子の信頼関係の構築に関与するオキシトシン等の血中濃度を測定していない点である。

結論:

6ヶ月まで完全母乳育児を実施した母親と、子どもを見たり話したりする等の関わりを持ちながら授乳した母親では、産後2年半における精神状態が良かった。一方で2歳までの母乳育児の継続の効果は確認されなかった。